

令和5年度水戸地域医療構想調整会議 議事録

1.日 時 : 令和5年6月26日(月) 18:30~20:06

2.開催方法 : Web会議(事務局 茨城県中央保健所会議室)

3.出席者 : 別添「出席者名簿」のとおり

4.議事

(1) 出席者の紹介

水戸地域医療構想調整会議24名の委員が出席し、委員以外に、管内市町、県関係機関等が出席していることを報告した。

(2) 議長の選任

会議設置要綱第7条により、細田会長が議長に就いた。

(3) 議事録署名人の指名

議長は、会議設置要綱第10条により、会議録署名人に田澤委員及び木村委員を指名した。

(4) 会議の公開

会議設置要綱第9条により公開とした。

(5) 議事

議長は、事務局に次の事項の説明を求め、事務局は会議資料に基づき説明を行い、質疑応答及び意見交換(別紙参照)が行われた。

①許可病床の削減・廃止について

- ・該当医療機関(城南病院、石田外科医院)から補足説明を求め、青柳病院は事務局より報告し、委員の承認を得た。

②紹介受診重点医療機関の選定について

- ・事務局より紹介受診重点医療機関について説明および管内の状況を報告した。
- ・基準を満たしていないが、医療機関の意向はある医療機関(茨城県立こども病院)から補足説明を求めた。
- ・水戸医療圏の紹介受診重点医療機関として以下の6つの医療機関が認められた。
 - 1 総合病院水戸協同病院
 - 2 水戸赤十字病院
 - 3 水戸済生会総合病院

- 4 茨城県立中央病院
- 5 国立病院機構水戸医療センター
- 6 茨城県立こども病院

③令和5年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査について

- ・令和5年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査について概要を説明した。
- ・医師派遣要望のあった7つの医療機関(水戸赤十字病院、水戸済生会総合病院、総合病院水戸協同病院、水府病院、国立病院機構水戸医療センター、茨城県立中央病院、石岡循環器科脳神経外科病院)より補足説明を求めた。
- ・水戸医療圏における医師派遣要望として以下の基準で、4名選出することが合意された。

- [基準]
- ア) 指導医がいる診療科であること
 - イ) 優先順位が1位又は2位であること
 - ウ) 地域医療における診療科目の重要性
 - エ) これまでの派遣実績

- [選出医療機関]
- | | | |
|---|----------------|-------|
| 1 | 国立病院機構水戸医療センター | 循環器内科 |
| 2 | 国立病院機構水戸医療センター | 呼吸器外科 |
| 3 | 総合病院水戸協同病院 | 消化器内科 |
| 4 | 茨城県立中央病院 | 神経内科 |

④その他

- ・水戸医療圏地域医療構想の推進について
 - ・医療機関の拠点化・集約化に向けた今後の方向性について意見交換がされた。
- ・第8次茨城県保健医療計画の策定について
 - ・概要、今年度のスケジュールについて情報共有がされた。

以上をもって、全ての議事が終了したので、議長は閉会の宣言をした。

上記を確認するため、議事録を作成し、議事録署名人が署名する。

令和5年8月 / 日

水戸地域医療構想調整会議会長

齋田 弥太郎

議事署名人

木村 都央

議事署名人

田澤 重伸

令和5年度水戸地域医療構想調整会議 意見要旨

日 時 : 令和5年6月26日(月) 18:30~20:06

開催方法: Web 会議

(事務局: 茨城県中央保健所会議室)

●令和5年度第1回水戸地域医療構想調整会議議事

(1) 許可病床の削減・廃止について

(2) 紹介受診重点医療機関の選定について

(3) 令和5年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査について

(石岡循環器科脳神経外科病院 大島医師)

脳卒中の指導医が0と回答したが脳神経外科や血管内治療の指導医であれば、我々の病院にも常勤している。そのことも踏まえて検討いただきたい。

(細田会長)

この意見を受け、2次回答までに調整していく。

(→後に、石岡循環器科脳神経外科病院の指定医に関して個票①の修正となる。)

(土田委員)

私どもは、要望はしてないが、今の4つの条件のうち、若い先生もおられるでしょうから、例えば指導医がいること等、最初の3つの条件は理解できる。4つ目の今までの派遣実績を条件の1つにした理由はなぜか。それを理由にするとずっと派遣されているところは派遣されるけれども、新たに要望したところが非常に不利になり、派遣先として認められない可能性があるのではないかと考える。4つ目に今までの派遣実績を条件に入れた根拠を教えてください。

(吉見副会長)

派遣元である筑波大学は、派遣された医師がその場で活躍してきたということを重んじた選択基準にしているのではないかと考えた。大学のスタッフと直接会って話をしたわけではないが、大学の意向を仲介した方からはそのように聞いている。

(医療人材課)

事務局の提案を伺って感じたことですが、派遣人数が少ない中で今まで全く派遣実績

がないところへ派遣するのは、大学としても拠点を変わるといった発想にまで至る可能性があるのではないかということ。ついては、拠点を改めてまで要望をするのか等も踏まえ、地域としての方向性をこの場で議論するために、事務局からこの条件が提示されたものと感じたところ。

(高橋委員)

拠点病院または筑波大学病院からの派遣実績がある医療機関のみ選定となると、今後この調査は無駄にならないか。いずれ派遣元の考え方が変わることはあるのか。

26人の要望に対して4人というこの数字が異常な乖離だった。そこを埋める県の努力は分かるが、もう少し希望している医療機関に寄り添ってほしい。

(医療人材課)

来年度から医師に対する労働時間の上限規制が適用されることもあり、昨年度の状況も踏まえると人員の配置が難しい状況ではないかと思う。その中で、より適切な配置と考えた時に、地域の中で拠点化、集約化とならざるを得ないと認識している。

一方で、退職など人の配置が急に途絶えてしまう場合にも、医師派遣要望調査で配置調整しているところ。

あくまで、今回の判断は水戸医療圏での派遣要望を4人に調整するために、事務局が考え提示したもの。我々としても、この医師派遣調整を引き続きブラッシュアップしていきたいと考えている。

(細田会長)

医療政策上の観点から、また来年度は少し違った見方ができることを期待する。今年要望を上げていない医療機関の理由もこちらに入っており、まさしく高橋委員の意見に関連してくる。そういったところを医療人材課の方には汲み取ってもらい、調整会議でまた示していきたい。

(生澤委員)

先ほど4つの条件が示されたが、これまで毎回のようにセレクションの方法が異なる。来年度も県のセレクション方法によって、調整方法が変わってしまうのではないか。今回は昨年のように点数化等で決めたのか教えてもらいたい。

(医療人材課)

4人に絞るというのは、昨年度の第4回地域医療対策協議会の中で決定したもの。4人に絞る方法を、各地域医療構想調整会議の中で決定することをお願いしている。

(細田会長)

生澤先生の質問は、医療政策上 26 人を 4 人に絞るところで、今年の実選基準がここで示されて、来年もこの実選基準でいくのかということかと思う。その辺を、医療人材課が明確にすると、医療機関がまた要望を出しやすい状況になるのではないか。ぜひ、来年度はよろしく願いたい。

(4) その他

・水戸医療圏地域医療構想の推進について

(吉見副会長)

昨年度 2 月 13 日開催した第 4 回水戸地域医療構想調整会議の事前打ち合わせ会議では、水戸医療圏の 5 病院の院長先生方に集まっていただき、以前から議論のテーマになっていたフラッグシップホスピタル(以下、FSH と表記)に関して意見交換をした。一部を除き FSH に関して、前向きな発言が聞かれたが、その過程で病院同士の再編成が議論に上るために、県の強いリーダーシップが必要だとの発言もあった。

その後、3 月 2 日の第 4 回水戸地域医療構想調整会議では、医療機関の拠点化・集約化に向けた今後の方向性について、水戸医療圏における今後の方向性として、合意された内容の一つとして、地域医療支援病院の 5 病院(水戸済生会病院、水戸赤十字病院、総合病院水戸協同病院、茨城県立中央病院、国立病院機構水戸医療センター)を対象とした再編統合及び高度急性期医療を FSH の設置について、県と協力して聞き続き検討していくことが合意された。

本年度 4 月 19 日には、鈴木邦彦茨城県医師会長の下、県医師会においてこれら 5 病院の一部病院とその母団体などを含む意見交換会が開催された。その中で、一部の病院だけではなく、地域医療構想をみんなで取り組んでいるという視点が重要だとの発言があり、参加者全員に関して同意した。

この事実を踏まえ、今後、本日は出席されていないが鈴木邦彦県医師会会長が、県医師会にて多くの方々の意見を集約する意見交換会を計画されるとのこと。当調整会議の一メンバーとしても、一致して前向きに地域医療連携推進法人の議論の復活や、茨城県が先行して経験済みの医療機関併設による連携、国に対する重点支援区域の申請など様々な可能性を含めた視野の下、議論を進めていけたらと考えている。

(土井委員)

今後、医療圏の中で FSH を含めた医療のあり方を、より具体的に話し合っていくということが必要であるため、伺ったことに関しては賛同する。ただ具体的に、今後どのように進めていくのかに関しては、様々なデータ等も出てくると思いますので、それをきちんと拝見しながら、さらに具体的な中身に話がおよんでいくことを期待します。

(高橋委員)

平成20年ごろにこの議論が始まり、2025年を目途に医療ニーズと医療提供にギャップが生じ、将来的には医療崩壊を起こすため、再編や統合或いは病床の増減、病床を何かに変えるという議論があったと記憶している。いよいよ2025年が再来年に迫っているが、今何がタイムリミットなのか教えていただきたい。もともとこれを言い出された方にもう一度説明していただきたい。

それから、様々なタイムリミットがあると思うが、①医療崩壊がいつ起こるのか。②派遣元の病院はいつになったらもう派遣しないのか。③それぞれの病院のハード面はいつになったら使えなくなるのか、或いは経営が成り立たなくなるのか。このようなことをしっかり皆で示し、危機意識を持つ必要がある。限界はあるが、私たちも水戸市にある病院を守る行政の責任があると考えている。ある程度のこのスケジュール感を持ち、議論ができるようお願いしたい。

(細田会長)

2025年、まずこれは1つ目のタイムリミットと考え、皆さんが共通の認識を持つことが必要かと思う。そして筑波大、各委員、さらに各院長先生方が、実際にタイムリミットを今後はしっかりとお示しいただきたい。

(吉見副会長)

個々の医療機関の今後に関しては、個々の医療機関の院長先生方が一番熱心に一生懸命考えていることと思う。ハードの問題、建物の問題、スタッフの問題、それから患者さんの動向問題、それらの5年後10年後を現状と考えると、どういう方向に行くべきか、一緒に話し合いに参加していただけたら、もっと前進できるのかと思う。

それから、先ほども申しました、国の重点支援区域にもし入ることができれば、専門家による緻密な分析、今後の目指す方向性が指導してもらえるのではないかと考える。

(小美玉市医療センター 湯沢医師)

そのタイムリミットという点で、議論になっていないが、2024年の働き方改革において、宿直体制の維持のため許可を皆さん申請していることだと思う。我々も先週許可を取ったところだが、現実的に宿直体制にすると救急は一切受けられない。それで本当に水戸医療圏の救急体制が維持できるのか。我々も二次救急施設だが、実際問題として宿直体制にすると一切受けられなくなる。現在それでも輪番制が入っているという、非常に矛盾した体制になっている。

本当に働き方改革の中で、ここにご参加の病院で宿直日直体制をしっかり維持しながらも、救急医療体制を維持できるのか非常に大きな危惧を持っているが、いかがか。

(米野委員)

働き方改革による二次医療機関が救急車を受けられない問題は、地域医療構想の救急部会でも取り上げられた。その時は、茨城県全体でその調査をするというような回答があった。その後、どうなったか不明だが、明日また茨城県全体で救急部会がある。私もその点について非常に危惧しており、救急搬送困難事例が増えてしまうのではないかと考えている。そういう意味では、至急その実態を調査し、搬送困難事例が起きないようにこの地域全体で考えていく必要は非常にあると思う。

(医療政策課)

搬送困難事例の件に関しまして、今こちらでわかる者が不在のため、改めて保健所の方に回答させてもらいたい。

(細田会長)

了解いたしました。保健所の方にお答えいただき、今日ご参加いただいている委員の皆様方にフィードバックしていく。本当に働き方改革も非常に大変な問題で、2024年の4月からの話になってくる。その点も含め、皆さんにご協議をお願いしたい。

・第8次茨城県保健医療計画の策定について

以上

令和5年度第1回水戸地域医療構想調整会議 委員名簿

区 分		氏 名	役 職	備考
医療 関 係 団 体	医師会	細 田 弥 太 郎	水戸市医師会長	
		石 塚 恒 夫	笠間市医師会長	
		會 澤 治	県央医師会長	
	歯科医師会	田 澤 重 伸	水戸市歯科医師会長	
	薬剤師会	奥 田 猛	水戸薬剤師会長	欠席
	看護協会	中 島 貞 子	茨城県看護協会専務理事	
	病院協会	諸 岡 信 裕	茨城県病院協会会長	
保険者		木 城 洋	全国健康保険協会茨城支部長	
福祉関係団体		保 立 武 憲	水戸市社会福祉協議会長	
介護事業者		木 村 都 央	茨城県老人福祉施設協議会理事	
住民代表		山 下 恵 子	中央保健所・水戸市保健所管内食生活改善推進協議会長	
市町村		高 橋 靖	水戸市長	
		國 井 豊	大洗町長	欠席
保健所		吉 見 富 洋	中央保健所長	
		土 井 幹 雄	水戸市保健所長	
基幹病院等		生 澤 義 輔	水戸済生会総合病院長	
		米 野 琢 哉	国立病院機構水戸医療センター院長	
		佐 藤 宏 喜	水戸赤十字病院長	
		渡 辺 重 行	総合病院水戸協同病院院長	
		島 居 徹	茨城県立中央病院長	
		平 澤 直 之	北水会記念病院長	
		家 田 俊 也	大洗海岸病院長	欠席
		土 田 博 光	水戸病院長	
		丹 野 英	丹野病院長	
		伊 藤 道 子	志村病院理事長	
	大 場 正 二	大場内科クリニック院長		
学識 経験 者	消防	大 内 康 弘	水戸市消防局消防局長	
	大学	田 宮 菜 奈 子	筑波大学教授	欠席